

海外安全対策情報（2020年10月～12月）

1 社会・治安情勢

(1) テロ等の傾向

ア パキスタンのテロ発生件数は、軍及び治安機関等によるテロリスト掃討作戦により、2009年をピークに減少傾向にあるものの、西部を中心に発生しており、引き続き警戒が必要である。テロ発生件数は前の期（2020年7月～9月期）から3件増加（38件→41件）し、死者は32人増加（42名→74名）、負傷者は78人増加（143人→221人）した。（当地シンクタンク「パキスタン平和研究所（PIPS）」調べ。）

また、2017年2月から開始されている軍及び治安機関等による対テロ作戦（ラッドウル・ファサード（Radd-ul-Fasaad・脅威の除去））は引き続き国内各地で実施されており、テロリストの検挙、武器等の押収等一定の成果を収めている。今期においても、単独又は少数による自爆、襲撃及び即製爆破装置（IED）攻撃が主要なテロの手段であり、その標的の多くは軍・治安当局とその関連施設であるが、テロ組織の中には中国・パキスタン経済回廊（CPEC）や中国関連施設への攻撃を企図する勢力もある。

イ 10月22日、国家テロ対策局（NACTA）は脅威アラートとして公告文を発出し、パキスタン・タリバーン運動（TTP）が、KP州ペシャワール及びバロチスタン州クエッタにおいて、「パ」の政治及び宗教指導者らを標的にした大規模テロ行為の実行を計画している旨公表。同テロ計画には、近々の爆弾及び自爆による多数の著名政治家暗殺計画も含まれている。

10月27日朝8時頃、KP州ペシャワールDir ColonyのモスクSpin Jumat内において、時限爆弾装置が爆発し、同モスク内で授業を受けていたマドラサの生徒8名が死亡、約120名が負傷。同州警察は、同爆弾には約5キロの爆発物が使用されており、手慣れた者による攻撃のようだが、有名テロ組織等による攻撃特徴はないと述べ、よく訓練され組織された新たなグループによる犯行の可能性を示唆。事前に本事案に関する脅威情報は発出されていなかった。

12月4日午後1時頃、パンジャブ州ラーワルピンディーのピールワダーイー地域において、雑貨店の外側でIEDが爆発し、1名が死亡、7名が負傷した。負傷者のうち、1名は重傷。同爆発は、店の外に停めてあったオートリキシャーに引火し、同店は甚大な損害を被った。IEDの大きさは、0.5～1キロの間で、ボールベアリング及び榴散弾も一緒に詰められていた模様。

12月13日午後2時頃、パンジャブ州ラーワルピンディーのガンジ・マンディ地区において、警察署から数百メートル離れた場所で手榴弾が爆発し、地元住民ら25名が負傷。車両1台も損傷した。目撃者らによると、オートバイに乗った犯人2名が、靴屋の周りに集まっていた人々や通行人らに

向かって手榴弾を投げつけ、現場から逃走した由。警察はテロの可能性を否定しなかったものの、現在爆発の原因について調査中。爆発物処理専門家は、今回使用された手榴弾はパキスタン国内で製造されたもので、高強度爆発物が用いられている旨明らかにした。

ウ 都市部や地方の別に関わらず、治安当局によるテロリストの拘束事件及び武器・弾薬等の押収事件も多く確認された。こうした状況から、治安当局による徹底した取締りが行われているが、依然として都市部においてもテロの脅威は存在している。

(2) 各種デモ

当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による様々なデモが行われる傾向があり、デモ参加者の行動がエスカレートし一部が暴徒化することもある。

11月13日から15日にかけて、宗教保守派パキスタン・ラバイク運動（TLP）は、カーディム・フセイン・リズヴィー代表（注：11月19日、ラホール市内の病院で新型コロナウイルス感染により死亡）の呼びかけで、仏風刺週刊紙シャルリー・エブドによる預言者ムハンマドを冒瀆する風刺画発行、及び、マクロン仏大統領によるイスラムとテロに関する発言に抗議するため、イスラマバードのファイザバード地区インターチェンジにおいて、3,000人規模の座り込みを実施。15日には警察官とTLP活動家らの間で衝突が発生し、多数が負傷した。警察は投石する抗議者らに対し、催涙弾で応戦するとともに、イスラマバード中心部への道を16か所封鎖し、14日夜からイスラマバードーラーワルピンディーー帯の携帯電話通信サービスを遮断。通行者らへの検査を厳格化する等、警戒レベルを上げて対応した。16日夜、同インターチェンジにおいて、大規模な座り込みを行っていたTLPは、連邦政府がTLPの要求4点を全て承認し、政府とTLPの間で合意に達した旨発表。同日、連邦政府は、TLPが抗議行動を中止する決定を下した旨明らかにした。17日未明、TLPは、リズヴィー代表の息子サーヒブザーダ・サード・リズヴィーとカードリー宗教問題担当相率いる政府交渉チームとの協議の後、抗議行動を中止し、イスラマバードーラーワルピンディーー帯は平常に戻った。

11月23日、ギルギット・バルティスタン（GB）のギルギットにおいて、15日に実施されたGB選挙の2選挙区の非公式結果に抗議し、デモを行った野党PPP支持者らと警察の間で衝突が発生。同地域高官は、興奮した抗議者20～25名が、政府施設及び車両4台に放火する等したと述べたが、PPP幹部は、抗議行動は平和裏に行われたと主張し、警察による催涙ガスや発砲等による暴力的な制圧を非難。PPP支持者らは、選挙結果は不正に操作されたと主張し、スカルドゥ及びチラスを含む複数地域においても同様のデモを行った。

12月30日、KP州カラックのTeri地域において、暴徒がヒンドゥー教寺院に放火し、同寺院の一部を解体。警察及び地元住民らによると、同寺院襲撃の前に、（イスラム教）聖職者らの会議が同地域Shanki Addaにおいて開催

されており、抗議者らが同地域におけるヒンドゥー教寺院の建立を許可しない旨のスローガンを叫んでいた。地元の聖職者2名らに対し、捜査開始を求めるFIRが登録された。抗議者らは当初、ヒンドゥー教寺院の拡張工事に対し平和的な抗議行動を行っていたが、聖職者らに唆され、暴徒化し、同寺院への攻撃を開始した。同地域におけるヒンドゥー教寺院の建立については、過去にも裁判で争われるなど、問題になっていた。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 邦人被害事案

なし

(2) 銃器使用犯罪

本期間においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が散発的に発生している。

治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器の蔓延が問題となっている。

(3) 招き入れ型侵入犯罪

イスラマバードは富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に荷担する事件が時折発生している。2020年1月、イスラマバード市内において、雇用主の留守中にドライバーが700万ルピー相当の金品を盗み、その事実を隠ぺいするため留守宅を放火するという事件も発生した。また、当地警察は、ガス、電気会社の職員を装った強盗が、家主の不在間に機器の点検目的を装い家屋に侵入し、金品を窃取する事件が増加傾向にあるとの注意喚起を出しているため、在宅の有無にかかわらず施錠を行うほか、使用人、警備員等への指導を徹底する必要がある。

(4) 名誉殺人

当国では地方を中心に、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される名誉殺人が跡を絶たない。今なお保守的なパキスタン社会では、毎年数百人の女性が名誉殺人の犠牲になっており、今期も凄惨な殺害事件が発生している。また、当地では親同士が本人の意思と関係なく決めた相手と結婚させるのが都市部でさえ一般的であり、それに起因するトラブルで結婚相手やその家族・親族等からのDV被害も深刻な問題となっている。

(5) 性犯罪及び虐待

当地では、強姦を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は多いと言える。同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出ないことも少なくなく、被害実態は正確に把握できない。被害者の年齢及び性

別は多様で特に子供をターゲットにした悪質な犯行も多く発生しており、誰もが被害者になる可能性がある点に注意する必要がある。

(6) サイバー犯罪

パキスタン連邦捜査局（F I A）サイバー犯罪部門は、SNSを通じた詐欺投資話、違法な資金取引、児童ポルノのアップロード等、サイバー領域における監視を強化している。F I Aでは、違法な手段で入手した資金がマフィアの活動資金となっているとして、摘発を強化している。

(7) 職業こじき

イスラマバード市内では、ギャングの支配下にある職業こじきが問題となっており、イスラマバード警察では摘発に力を入れ、本年10,998人（9月4日現在）の職業こじきを逮捕した。道路上での物乞いを装って、拳銃強盗を働くケースも報告されている。物乞いに窓を開けて対応する等、不注意な行動は犯罪者に隙を与えるため、慎む必要がある。

(8) その他

本期間においても連日、不法な銃器・爆発物・薬物・酒類の押収事案が報じられた。これらの事案は、厳重な警戒下にあるイスラマバード市内においても、テロ発生の可能性は依然として排除できないことを示している。

3 2020年1月から12月までのテロ事件発生状況

2020年

| | | | |
|-----|--------|---------|------|
| 1月 | 21件、死者 | 33名、負傷者 | 60名 |
| 2月 | 10件、死者 | 20名、負傷者 | 35名 |
| 3月 | 10件、死者 | 4名、負傷者 | 24名 |
| 4月 | 8件、死者 | 10名、負傷者 | 13名 |
| 5月 | 14件、死者 | 30名、負傷者 | 10名 |
| 6月 | 15件、死者 | 20名、負傷者 | 41名 |
| 7月 | 16件、死者 | 17名、負傷者 | 45名 |
| 8月 | 12件、死者 | 14名、負傷者 | 86名 |
| 9月 | 10件、死者 | 11名、負傷者 | 12名 |
| 10月 | 16件、死者 | 40名、負傷者 | 124名 |
| 11月 | 10件、死者 | 16名、負傷者 | 7名 |
| 12月 | 15件、死者 | 18名、負傷者 | 90名 |

(出典：パキスタン平和研究所)

4 安全を考える上で参考となる事件等（報道ベース）

*以下、パキスタンを「パ」と表示、下線表記は別項重複か所

○10月2日、アフガニスタン国境近くのK P州北ワジリスタン部族郡Boya地域において、治安部隊とテロリストの間で銃撃戦が発生し、テロリスト2名が

- 死亡、1名が逮捕された。「パ」軍指揮官1名及び兵士3名も負傷した。
- 10月3日夜、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリ近郊 Khaisoor 地域において、治安部隊がインテリジェンス情報に基づいた作戦を実行し、銃撃戦の末、テロリスト2名を殺害、1名を逮捕。「パ」兵士1名も負傷した。
 - 10月5日、KP州ペシャワールの Wazir Bagh 地域において、何者かがアフマディ・コミュニティ（注：当国では憲法上、ムスリムと認められていない）所属の地元大学教授を射殺。同教授は、数日前に宗教に関して親族男性及び同僚の特任教授の2名と口論していた。事件後、これら2名が起訴された。
 - 10月10日夜明け前、KP州北ワジリスタン部族郡 Shawal 溪谷 Manra Mendara 地域において、治安部隊の検問所がミリタントらによるロケット攻撃を受け、「パ」兵士2名が死亡、3名が負傷。
 - 10月12日、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリにおいて、巡回中の治安部隊を狙った遠隔操作爆弾の爆発により、治安要員1名が負傷。
 - 10月14日、KP州バジョール部族郡において、「パ」軍哨所がアフガニスタン側からテロリストらによる越境攻撃を受け、治安要員1名が死亡、1名が負傷。また同日、同州北ワジリスタン部族郡ミラーリ郡 (tehsil) Patisai Adda の「パ」軍哨所も何者かに攻撃され、治安要員1名が死亡、6名が負傷した。
 - 10月14日午後6時頃、KP州北ワジリスタン部族郡ラズマク付近において、南ワジリスタン部族郡へ移動中だった治安部隊の2車両に対するIED攻撃が発生し、「パ」軍司令官1名及び兵士5名が死亡、兵士1名が負傷した。パキスタン・タリバーン運動 (TTP) が犯行声明を発出した。
 - 10月16日正午頃、KP州ハイバル部族郡 Bara 郡 (tehsil) において、オートバイに乗った武装犯3名が、Frontier Road を走行していた北大西洋条約機構 (NATO) のトレーラー2台に拳銃を突きつけて停車させ、荷台に積載されていた軍事用ジープ4台に放火。運転手らは無事だった。犯人らは逃走中で、犯行声明は発出されていない。
 - 10月17日夜、KP州シャングラ Martung 郡 (tehsil) ・Karin Dara 地域の自宅付近において、警察情報局所属の警察官1名が、何者かによって銃撃され死亡。
 - 10月18日、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリにおいて、自動車でバザールに向かっていた辺境警備隊 (FC) の退役兵士1名が、何者かによって銃撃され死亡。
 - 10月22日、国家テロ対策局 (NACTA) は脅威アラートとして公告文を
発出し、パキスタン・タリバーン運動 (TTP) が、KP州ペシャワール及びバ
ロチスタン州クエッタにおいて、「パ」の政治及び宗教指導者らを標的にした
大規模テロ行為の実行を計画している旨公表。同テロ計画には、近々の爆弾及
び自爆による多数の著名政治家暗殺計画も含まれている。
 - 10月26日、KP州クラム部族郡 Shalozan 地域において、一家が乗車した移動中の車両を何者からが銃撃。辺境警備隊 (FC) 兵士1名を含む同家族4名

が死亡、子供2名が負傷。その後、警察は容疑者6名を逮捕した。

- 10月27日朝8時頃、KP州ペシャワール Dir Colony のモスク Spin Jumat 内において、時限爆弾装置が爆発し、同モスク内で授業を受けていたマドラサの生徒8名が死亡、約120名が負傷。同州警察は、同爆弾には約5キロの爆発物が使用されており、手慣れた者による攻撃のようだが、有名テロ組織等による攻撃特徴はないと述べ、よく訓練され組織された新たなグループによる犯行の可能性を示唆。事前に本事案に関する脅威情報は発出されていなかった。
- 10月28日夜、KP州北ワジリスタン部族郡 Jailor 地域において、覆面をした武装犯グループがモスクに立ち入り、警察官を含む数名の礼拝者らを強制的に連れ去った後、同警察官1名を殺害。翌29日、別の場所に遺棄されている同人の遺体が発見された。
- 11月1日、パンジャープ州 Chiniot の Lalian 郡 (tehsil) Ahli Langrani 村において、ポリオ・ワクチンを子供達に接種していた医療チームが、同ワクチン接種に反対する村人に斧で攻撃され、村を追い出された。その後同郡警察は村人を逮捕し、同チームの警護にあたった。
- 11月1日、パンジャープ州ラジャンプール地区 Rojhan 郡 (tehsil) Goth Mazari において、同州テロ対策局 (CTD) 及び軍統合情報局 (ISI) がインテリジェンス情報に基づいた合同作戦を実行し、インド亜大陸のアル・カーイダ (AQIS) 所属主要テロリスト4名を逮捕。同人らは、南パンジャープの主要軍事施設を標的としたテロ攻撃を計画しており、所持品からは自爆ジャケット、手榴弾、ライフル銃等が押収された。今回の逮捕により、「パ」国内のAQISネットワークに関する重要な情報が明らかになると期待されている。
- 11月5日、パンジャープ州DGカーン郡において、テロ対策局 (CTD) がインテリジェンス情報に基づく作戦を実行し、銃撃戦の末、インド亜大陸のアル・カーイダ (AQIS) 所属テロリスト2名を殺害。同人らの所持品から、武器、弾薬及び爆発物を押収した。同人らは、同地域の法執行機関高官らを狙った攻撃を計画していた。
- 11月8日、KP州ペシャワール Sheikh Mohammadi 地域のバス停において、アフマディ・コミュニティ所属の男性1名が、何者かによって射殺された。ペシャワールでは今般、同コミュニティに所属する人々が何者かに射殺される事件が相次いでおり、本件は過去4か月間で4件目の事案。
- 11月12日、KP州バジョール部族郡 Mamond 郡 (tehsil) において、何者かが帰宅途中だった部族の長老を射殺。犯行声明は発出されていない。
- 11月13日から15日にかけ、宗教保守派パキスタン・ラバイク運動 (TLP) は、カーディム・フセイン・リズヴィー代表 (注：11月19日、新型コロナウイルス感染症により死亡) の呼びかけで、仏風刺週刊紙シャルリー・エブドによる預言者ムハンマドを冒瀆する風刺画発行、及び、マクロン仏大統領によるイスラムとテロに関する発言に抗議するため、イスラマバードのファイ

ザバード地区インターチェンジにおいて、3,000人規模の座り込みを実施。15日には警察官とTLP活動家らの間で衝突が発生し、多数が負傷した。警察は投石する抗議者らに対し、催涙弾で応戦するとともに、イスラマバード中心部への道を16か所封鎖し、14日夜からイスラマバードラーワルピンディー一带の携帯電話通信サービスを遮断。通行者らへの検査を厳格化する等、警戒レベルを上げて対応した。16日夜、同インターチェンジにおいて、大規模な座り込みを行っていたTLPは、連邦政府がTLPの要求4点を全て承認し、政府とTLPの間で合意に達した旨発表。同日、連邦政府は、TLPが抗議行動を中止する決定を下した旨明らかにした。17日未明、TLPは、リズヴィー代表の息子サーヒブザダ・サード・リズヴィーとカードリー宗教問題担当相率いる政府交渉チームとの協議の後、抗議行動を中止し、イスラマバードラーワルピンディー帯は平常に戻った。

- 11月18日、KP州チャールサダにおいて、一般に公開されていない治安機関事務所がオートバイに乗った狙撃犯らに銃撃され、同事務所の外で警備の任務に就いていた辺境警備隊（FC）隊員1名が死亡。報復攻撃により、攻撃者1名も死亡した。
- 11月18日深夜、KP州南ワジリスタン部族郡 Pash Ziarat 付近の治安部隊検問所に対し、テロリストらがロケットを打ち込み攻撃。治安部隊は直ちに報復攻撃を行った。両者間の銃撃戦により、兵士2名が死亡、1名が負傷した。犯人は逮捕されておらず、犯行声明も発出されていない。
- 11月21日深夜、KP州北ワジリスタン部族郡 Spinwam 北西 Kaitu 川付近におけるテロリストらの隠れ場所に対し、治安部隊がインテリジェンス情報に基づく作戦を実行。両者間の銃撃戦により、全テロリスト4名及び「パ」軍兵士1名が死亡、兵士2名が負傷した。
- 11月23日、治安部隊は、22日夜にKP州バジョール部族郡 Salarzai 郡 (tehsil) Tangi 地域で実行したインテリジェンス情報に基づく作戦により、同地域の隠れ場所に潜んでいたISカラチ支部代表を含むミリタント司令官2名を殺害し、複数名を逮捕した旨公表。軍統合広報局（ISPR）が発出した声明によると、バジョール部族郡及びカラチにおける多数のテロ事案に関与していた同2名は、印調査分析局（RAW）の支援を受けた印側の指導者らから直接指示を受けていた由。2名の殺害により、同人らが所属していた主要なテロ・ネットワークは無力化された。同作戦で、治安要員1名が負傷した。
- 11月23日、ギルギット・バルティスタン（GB）のギルギットにおいて、15日に実施されたGB選挙の2選挙区の非公式結果に抗議し、デモを行った野党PPP支持者らと警察の間で衝突が発生。同地域高官は、興奮した抗議者20～25名が、政府施設及び車両4台に放火する等したと述べたが、PPP幹部は、抗議行動は平和裏に行われたと主張し、警察による催涙ガスや発砲等による暴力的な制圧を非難。PPP支持者らは、選挙結果は不正に操作されたと主張し、スカルドゥ及びチラスを含む複数地域においても同様のデモを行

った。

- 11月24日早朝、パンジャブ州ラホール Burki ロードのテロ対策局（CTD）警察署に対し、自爆犯が攻撃を試み、治安部隊により射殺された。治安部隊側に負傷者はなし。同自爆犯の所持品からは、手榴弾、ピストル及び実弾が見つかった。数時間後、パキスタン・タリバーン運動（TTP）が犯行声明を発売し、同自爆犯がCTD要員らを乗せたバスを標的にしていた旨明らかにした。
- 11月26日、KP州北ワジリスタン部族郡 Mir Ali 郡 (tehsil) において、軍のエンジニアリング・建設会社である辺境開発機構（FWO: Frontier Works Organisation）の職員4名が乗車していた車両に対し、何者からが銃撃。4名はその場で死亡した。
- 11月26日、KP州ノウシェラ Taru Jabba 村の自宅正門において、ペシャワールの警察官1名が銃撃され死亡。パキスタン・タリバーン運動（TTP）が犯行声明を発売した。
- 11月30日、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリ・バザールにおいて、Khaisur 地域の部族の長老4名が標的殺害により暗殺された。目撃者らによると、着色ガラスの車両に乗った犯人らは、長老4名が乗った車両に対して近距離から銃撃後、現場から逃走。犯行声明は発売されていない。
- 12月1日、KP州バジョール部族郡 Salarzai 郡 (tehsil) Laittay Bando 地域に対し、アフガニスタン側からミリタントらが迫撃砲による越境攻撃を実施。羊飼ひ1名が死亡、1名が負傷した。
- 12月1日、KP州北ワジリスタン部族郡ミランシャーの市場において、日用品の買い物をしていた部族の長老1名が、標的殺害により何者かに射殺された。同人は、アフガニスタンとの国境付近 Dyoger Saidgei 地域出身。犯人は逮捕されていない。
- 12月2日、KP州バンヌー Jhandokhel において、ポリオ・ワクチン接種チームの警護を終え、警察署に戻る途中だった警察官1名が、オートバイに乗った狙撃犯らにより射殺された。犯人らは現場から逃走し、未だ逮捕されていない。
- 12月4日午後1時頃、パンジャブ州ラーワルピンディーのピールワダーイー地域において、雑貨店の外側でIEDが爆発し、1名が死亡、7名が負傷した。負傷者のうち、1名は重傷。同爆発は、店の外に停めてあったオートリキシャーに引火し、同店は甚大な損害を被った。IEDの大きさは、半キロから1キロの間で、ボールベアリング及び榴散弾も一緒に詰められていた模様。
- 12月4日、KP州カラック郡 (tehsil) Dabb Hakeemkhel 地域において、警察が内報に基づき民家への踏み込み捜査を実施。テロリストらと警察の間で銃撃戦が発生し、テロリスト1名が死亡、警察官1名が負傷した。警察は、死亡したテロリストからカラシニコフ銃1丁及びピストル1丁を押収した。他のテロリストらは逃走中。

- 12月5日夜、K P州ターンク Mulazai において、定期巡回中だった警察車両が犯罪宣告人 (proclaimed offender) らによる銃撃を受け、警察官2名が負傷。犯人らは逃走し、未だ逮捕されていない。警察は現場からオートバイ1台を押収した。
- 12月5日、K P州カラック郡 (tehsil) Chokara 地域において、オートバイに乗っていた夫婦とその息子1名の一家3名が、何者からによって銃撃され、その場で死亡した
- 12月7日夜、K P州バジョール部族郡 Nawagai 郡 (tehsil) Saidashah 地域において、治安部隊がインテリジェンス情報に基づいた掃討作戦を実施。同作戦の最中、治安部隊に包囲されたテロリスト1名が自爆した。他のテロリストらは逮捕されていない。
- 12月7日夜、K P州D Iカーンの Madina コロニーにおいて、オートバイに乗った身元不明の犯人が、自宅に入ろうとしていた地元のジャーナリスト及び同息子 (元P T I 地域支部少数派メンバー) を射殺。犯人は現場から逃走した。
- 12月9日午後3時頃、パンジャープ州ラホール Shahdara の倉庫において、同州テロ対策局 (C T D) と軍統合情報局 (I S I) テロ対策部隊は、インテリジェンス情報に基づいた合同作戦を実施。印調査分析局 (R A W) が支援しているとされるテロリスト・ネットワーク所属テロリスト5名を逮捕した。同人らは、逮捕の数時間後に、市民事務局が閉鎖する時間に合わせ、同ゲート前でI E Dを爆発させる計画していた。同人らから押収した携帯電話には、同爆破計画の首謀者である、アフガニスタン滞在中のR A W高官との通話履歴等が検出された。
- 12月10日、パンジャープ州ラホール Shahdara において、オートバイに乗った犯人が、帰宅途中だった警察官1名の頭部に銃撃。同警察官は死亡した。警察は調査を進めている。
- 12月13日、野党連合パキスタン民主運動 (P D M) が、ラホールの「パキスタンの塔 (ミナーレ・パキスタン)」周辺で反P T I 政権運動の第一段階の締めくくりとなる集会を行い、モーラーナー・ファズルル・ラフマーンP D M 総裁 (J U I - F 党首) は来年1月末から2月初めにかけて、イスラマバードへのロングマーチを行う予定である旨発表。
- 12月13日午後2時頃、パンジャープ州ラーワルピンディーのガンジ・マンディ地区において、警察署から数百メートル離れた場所で手榴弾が爆発し、地元住民ら25名が負傷。車両1台も損傷した。目撃者らによると、オートバイに乗った犯人2名が、靴屋の周りに集まっていた人々や通行人らに向かって手榴弾を投げつけ、現場から逃走した由。警察はテロの可能性を否定しなかったものの、現在爆発の原因について調査中。爆発物処理専門家は、今回使用された手榴弾は「パ」国内で製造されたもので、高強度爆発物が用いられている旨明らかにした。
- 12月14日の夜明け前、ラーワルピンディーの Sadiqabad 警察署に対し、何

- 者が発砲し、現場から逃走。警察官らはかろうじてその場から逃げ出し、負傷者は出なかった。警察は反テロ法の下、同事案を立件し、調査を開始した。
- 1 2 月 1 4 日、K P 州ペシャワール市内 Sarband 地区の Malik Doran Gul 市場において、テロ対策局 (C T D) が掃討作戦を実行し、テロリスト 2 名を逮捕。同人らの所持品から、手榴弾 2 発及び拳銃 2 丁を押収した。また同日、同市において、内報に基づき警察が疑わしい車両を取り調べ、違法な兵器及び弾薬を運んでいた 4 名を逮捕。同人らの所持品から、カラシニコフ銃 3 丁、拳銃 1 丁及び弾薬筒等を押収した。
 - 1 2 月 1 5 日午前、カラチ市南地区において中国人の車両に遠隔装置爆弾が設置されたが爆発は失敗に終わった。警察によりこの物的証拠は回収された。この中国人はレストランを所有している。同人がクリフトン地区のショッピングモールから帰宅していたところ、オートバイに乗車した 2 人の男が中国人車両に接触した後に逃走した。その際に爆発物が磁石で取り付けられた。
 - 1 2 月 1 5 日深夜、K P 州ラッキー・マルワトの Darra Tang-Chashma ロード上の Wanda Mir Alam 検問所において、巡回から戻った警察官らに対し、何者からが攻撃。警察官 1 名が死亡、私用料理人 1 名が負傷した。犯人らは現場から逃走した。
 - 1 2 月 1 7 日夜、治安部隊及び警察は、K P 州ペシャワールのハイバル地区 Sipah において踏み込み捜査を行い、2 5 日にペシャワールでテロ攻撃を計画していたテロリスト 4 名を逮捕。そのうちの 1 名は、同地区内及びその周辺において活動する禁止団体ラシュカレ・イスラム (L I) の司令官。同人らの所持品からは、自爆ジャケット 3 着及び I E D 6 発が押収された。情報筋によると、逮捕されたテロリスト 1 名からの情報に基づき、Badaber 村で別の踏み込み捜査が行われ、同テロリストの協力者 8 名が逮捕された。
 - 1 2 月 1 8 日、テロ対策局 (C T D) は、K P 州マルダーンにおいて捜索作戦を実行し、アフガニスタン・クナル県在住のアフガニスタン人ミリタント 5 名を逮捕。同人らの所持品から、自爆ジャケット 1 着、3 キロの手製爆弾及び手榴弾 5 発等を押収した。
 - 1 2 月 2 0 日深夜、治安部隊は、K P 州バジョール部族郡 Barang 郡 (tehsil) において、インテリジェンス情報に基づく作戦を実行し、自爆ジャケット 2 着を押収。テロリストらが印情報機関の指示により、2 5 日にペシャワール及びラーワルピンディーにおいて、自爆攻撃の実行を計画していた由。情報筋によると、治安部隊は同地域において、過去数週間間に、多数の主要テロリストらを殺害または逮捕している。
 - 1 2 月 2 2 日午後、カラチ・スーパー・ハイウェイ沿いの車両展示場において発砲事案が発生した。当時、中国人技術者が視察に来ていたが被害はなかった。防犯カメラの映像によると、バイクに乗った 2 人の男が同展示場に近づき発砲したことが確認された。
 - 1 2 月 2 3 日、パンジャーブ州テロ対策局 (C T D) は、同州バハーワルプ

ールの Hasilpur ロードにおいて、インテリジェンス情報に基づく作戦を実行し、パキスタン・タリバーン運動（TTP）所属テロリスト1名を逮捕。同人の所持品から、手榴弾1発及びピストル1丁を押収した。

- 12月23日深夜、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリにおいて、テロリストらが巡回中だった治安部隊の車両を攻撃。「パ」兵士1名が死亡、7名が負傷した。治安部隊は適宜報復攻撃を行い、両者間の銃撃戦により、テロリスト2名が死亡、10名が負傷した。犯行声明は発出されていない。
- 12月25日、KP州ローワーディールにおいて、テロ対策局（CTD）が取り締まりを2回実施し、テロリスト計4名を逮捕。同人らの車両から、爆発物375キログラム、安全ヒューズ及び起爆装置等を押収した。
- 12月29日、KP州バジヨール部族郡 Nawagai 地域において、警察はインテリジェンス情報に基づく作戦を実行し、複数のテロリストらの隠れ場所を捜索。手榴弾等、大量の武器及び弾薬を押収した。
- 12月30日、KP州カラックの Teri 地域において、暴徒がヒンドゥー教寺院に放火し、同寺院の一部を解体。警察及び地元住民らによると、同寺院襲撃の前に、（イスラム教）聖職者らの会議が同地域 Shanki Adda において開催されており、抗議者らが同地域におけるヒンドゥー教寺院の建立を許可しない旨のスローガンを叫んでいた。地元の聖職者2名らに対し、捜査開始を求めるFIRが登録された。抗議者らは当初、ヒンドゥー教寺院の拡張工事に対し平和的な抗議行動を行っていたが、聖職者らに唆され、暴徒化し、同寺院への攻撃を開始した由。同地域におけるヒンドゥー教寺院の建立については、過去にも裁判で争われるなど、問題になっていた。

5 誘拐・脅迫事件発生情報

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件が頻繁に発生している。誘拐・脅迫事件の背景としては、テロ組織による、誘拐事件を利用した政府等への身代金等の要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、一般犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な労力・時間を要すると共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。

今期間中に身代金目的の誘拐事件は報道されなかったが、女性や子供が性犯罪目的で誘拐される事件が多く報道された。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

これまでのところ、邦人及び日系企業に対する脅威情報には接していないものの、2017年5月にはクエッタにおいて中国人の誘拐・殺害事件が発生したほか、同年7月にも、カラチ市内の幹線道路において中国人技術者を対象とした爆発事件が発生するなど、外国人が、事件に巻き込まれるケースも発生している。

12月15日、カラチ市南地区において中国人の車両に遠隔装置爆弾が設置されたが爆発は失敗に終わった。この中国人はレストランを所有している。同人がクリフトン地区のショッピングモールから帰宅していたところ、オートバイに乗車した2人の男が中国人車両に接触した後に逃走した。その際に爆発物が磁石で取り付けられた。

活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、まずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、現地治安当局による安全対策がなされないばかりか、速やかな退去を命ぜられ、また犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続きを行うことが必要である。なお、手続きを行ったにもかかわらず、政府からの入域許可が得られない場合には、安全上の問題が生じる可能性があるため、当該地域への入域は控えることが望ましい。

(以上)